

日本美術院創立90周年

再興 第73回

院 展



9月20日(火)～10月4日(火)

- 開館時間＝午前9時～午後5時 休館は月曜日
※ 展示室への入室は4時30分まで・最終日のみ2時30分まで
- 入 場 料＝一般700(500)円 高・大生400(300)円 小・中生200(100)円
()内は前売料金・団体20名以上割引あり

高松市美術館

〒760 高松市紺屋町10-4
TEL (0878) 23-1711
〈テレホンサービス 23-1500〉

共催＝日本美術院・四国新聞社

● 講演会

平山郁夫氏「シルクロード 砂漠とオアシスの道」

■ 日時：10月2日(日) 午後1時から

■ 会場：高松市美術館講堂

平山 郁夫

■ 院展のあゆみ

明治のはじめ、欧米崇拜の風潮によって日本画は一時的に衰微しましたが、アメリカ人フェノロサは伝統的な日本美術の復興を主張し、また岡倉天心は狩野芳崖、橋本雅邦らと東京美術学校を創設しました。しかし反対派と対立した天心は校長の職を辞し、明治31年(1898)、橋本雅邦、横山大観、菱田春草らと日本美術院を結成し、その中心となったのです。

この日本美術院は、東洋美術の正しい伝統を基礎として、新時代の新美術を樹立することを目的としたもので、横山大観の『無我』や菱田春草の『黒き猫』などの作品はすでに教科書などでおなじみだと思います。

しかし一時その活動が衰えていましたが、岡倉天心の逝去を機に大正3年(1914)、横山大観、下村観山、安田靉彦、今村紫紅らが再興をはかり、文展(官設展)に対抗しました。その後同人となった小林古徑、前田青邨、速水御舟、富田溪仙らが活躍し、昭和期にかけて日本画近代化の主流となり、その後も奥村土牛、小倉遊亀、岩橋英遠、平山郁夫ほか有力作家を加えて日展、創画会とともに日本画の三大勢力の一つとして、すぐれた業績を示してきました。

香川県出身では、同人となった馬場不二や再興第68回院展文部大臣賞を受賞した樋笠数慶などの作家がいます。

■ 主な出品作家(予定)

奥村 土牛	小倉 遊亀	田中 青坪	北沢 映月
小松 均	中島 清之	片岡 球子	岩橋 英遠
真野 満	今野 忠一	福王寺法林	郷倉 和子
塩出 英雄	菊川 多賀	平山 郁夫	荘司 福
吉田 善彦	岡本彌寿子	森田 曠平	松尾 敏男
後藤 純男	守屋多々志	小山 硬	鎌倉 秀雄
月岡 榮貴	長谷川青澄	福井 爽人	岩壁富士夫
伊藤 彰耳	松本 哲男	関口 正男	田淵 俊夫
山中 雪人	日本美術院同人ほか		

■ 次回の展覧会

香川県美術家協会 創立20周年記念展

10月8日(土)～10月23日(日)

フィッツウィリアム美術館所蔵 フランス近代風景画展

10月29日(土)～11月27日(日)

イギリスのケンブリッジ大学附属のフィッツウィリアム美術館が所蔵している作品から、ミレー、モネ、ルノアール、セザンヌ、ゴッホ、マチスなどのフランスの風景画を系統的に展示します。

■ 常設展示のご案内(～10月10日(月))

〔常設展示室1〕

戦後日本の現代美術を展示しています。戦前より活躍していたオノサト・トシノブや岡本太郎から、情熱をそのまま画面に定着させたような60年代の力強い作品、また幾帳の虹の絵画や本物と見まちがうようなスーパーリアリズムの作品は、戦後日本の現代美術のエッセンスであると同時に、その楽しさも十分に伝えてくれることでしょう。

〔常設展示室2〕

香川の漆工・金工を展示しています。漆工では、江戸時代末期の玉楮象谷を祖とし、その一門から明治・大正期の名工たちに引き継がれ、人間国宝の磯井如真・音丸耕堂らによって新しい展開をみせた讃岐漆芸の流れを、時代をおって展示することができます。また金工は、近代工芸界の改革者であった北原千鹿と、その周辺の作家たちを中心としたすぐれた金工作品の数々を紹介いたします。

■ 交通案内

JR四国……JR高松駅下車、徒歩10分
 琴平電鉄……片原町駅下車、徒歩10分
 瓦町駅下車、徒歩15分
 バス各路線……紺屋町下車、徒歩2分

高松市美術館

〒760 高松市紺屋町10-4
 TEL (0878) 23-1711
 <テレホンサービス 23-1500>

